

製造シナリオのデジタル検証環境構築のための 動的製造装置モデルのカatalog化に関する国際標準化

事業概要

継続：2年目

標準化分野

事業略称	動的装置モデル	期間	2020～2022	予算元	野村総研	事業形態	再委託
概要	新国際標準ISO 16400「仮想製造システムのための動的製造装置モデル」ではコンピュータ内に仮想製造ラインを構成し、製造ライン上の事前検討、計画実行などを支援する情報環境の構築に必要な国際標準を開発している。 本事業では、Part1（動的製造装置モデルの全体概要）、Part2（動的製造装置モデルの形式的構造とテンプレート）およびPart3（デジタル検証システム構成のための動的製造装置モデル利用ガイドライン）の国際標準化に引き続き、Part4（利用方法(仮題)）の国際標準規格開発を進める。さらに、国内においては試験研究を実施し、本提案の実現性を確認するとともに、その普及手段についても検討する。国内では試験研究を実施し、提案するフレームワークの試作を行ない、本提案の実現性を確認し、更にその普及手段についても検討する。						
ゴール	ISO 16400(仮想製造システムのための動的製造装置モデル)の各Partの国際標準を開発する。						

2021年度 計画(左)／活動結果(右) [予算：10.0百万円／決算：8.4百万円]

動的製造装置モデルの利用に関する国際標準化提案準備	Web会議により計画に沿って実施。他規格(Digital Factory、AAS)への本規格の活用検討に着手。
動的製造装置モデルに関する国際標準化(Part2,3)	COVID-19により、Part2,3開発を再開し、WD及びCD案の審議をメール・リモートで実施。CD作成完了
動的製造装置モデルに関する技術調査	技術調査項目を決定し、(株)ケー・ティー・システムにて調査を実施。調査結果をPart4原案に反映。

ISO制定ステップ

Step1提案：NP

Step2作成：WD

Step3委員会：CD

Step4提案：DIS

Step5承認：FDIS

Step6発行：IS

動的製造装置モデルのカatalog化に関する国際標準化

2021年度成果

■ 成果

ISO/TC184/SC5/WG13国内委員会を開催(計6回)し、規格開発計画の審議を実施した。

また、メールによるPart2,Part3文書の書面
審議、Webによる国際会議(3回)を開催し、
規格提案計画、関連規格調査について審議
を実施した。

■ 今後の見込み

COVID-19の影響で、今年4月まで対面のミーティング禁止がISOより指示されている。メールによる書面審議、Web会議の開催で規格開発を進める。

■ ISO 16400シリーズ

2015年度からISO 16400規格を開発中

Part1：動的製造装置モデルの全体概要

Part2：動的製造装置モデルの形式的構造とテンプレート

Part3：デジタル検証システム構成のための動的製造装置モデル利用ガイドライン

Part4：利用方法（仮題）

